

# 努力が幸福 を信じて



## 平成26年度第1学年「進路探訪」実施要項

### 目次

実施要項	1
分科会講師、会場、参加人数、担当者	2
全体会講師プロフィール	3
講演	4
全体会の感想	17
分科会のまとめ	
第1分科会	20
第2分科会	22
第3分科会	24
第4分科会	26
第5分科会	28
第6分科会	32
第7分科会	34
第8分科会	38
第9分科会	40
第10分科会	42
第11分科会	44
第12分科会	46
第13分科会	48
後記	51

#### 1 目的

社会で現在活躍中の方の講演を通して、広い視野に立った生き方や考え方を学ぶ。また、自分自身を見つめ直し将来の可能性を探るとともに、自分の進路について真剣に考え充実した高校生活を築く一助とする。

#### 2 実施期日

平成26年10月4日(土)

#### 3 会場

全体会(講演会) 本校講堂 講師 (株)新日本コンサルタント取締役社長  
市森 友明 氏

分科会(懇談会) 各教室及び特別教室

#### 4 日程

8:30 生徒登校  
8:40～9:00 ST、移動  
9:00～10:00 全体会(講演会)  
10:00～10:15 移動  
10:15～11:05 分科会(懇談会)Ⅰ  
11:20～12:10 分科会(懇談会)Ⅱ  
12:10～ 後片付け

#### 5 対象生徒

1年生 200名

#### 6 事前指導

- ① 進路・職業意識調査
- ② 参加分科会希望調査
- ③ 分科会生徒係分担・企画打ち合わせ会

#### 7 事後指導

まとめ集作成(講演会感想・懇談会報告)

## 全体会講師プロフィール

氏 名 市森 友明

役 職 株式会社新日本コンサルタント代表取締役社長

### 経 歴

昭和 43 年 6 月 富山県小矢部市生まれ  
昭和 62 年 3 月 富山県立高岡高等学校 卒業  
平成 4 年 3 月 京都大学工学部土木工学科 卒業  
平成 4 年 4 月 佐藤工業株式会社入社 土木部配属  
・地下鉄建設事業：京都地下鉄東西線、神戸地下鉄海岸線、  
大阪地下鉄 8 号線他  
・設計部業務：国内地下鉄事業、シンガポール地下鉄事業他  
・その他建設業務：山陽新幹線高架橋震災復旧業務他  
平成 15 年 4 月 株式会社新日本コンサルタント入社 設計部配属  
平成 18 年 7 月 " 代表取締役社長就任  
現在に至る

### 資 格

技術士 建設部門（トンネル） 技術士 総合技術監理部門

### 要 職

富山経済同友会幹事 地域活性化委員会委員長  
公益社団法人地盤工学会北陸支部 幹事  
富山県小水力利用推進協議会 副会長  
協同組合富山測量調査センター 副理事長  
公益社団法人日本技術士会北陸本部富山県支部 副支部長  
財団法人富山市勤労者福祉サービスセンター 理事  
一般社団法人富山県測量設計業協会 理事  
一般社団法人管路診断コンサルタント協会 理事 他

### 専門分野

都市部における開削トンネル、シールドトンネルに関する計画・設計・施工計画全般  
大深度土留め計画、盤ぶくれ対策、地下水位対策、近接構造物への影響検討、FEM解析、  
オープンケーソン計画、地盤計測計画、RC構造物、RC構造物補強計画他

## 演題 学びにおける 2 つのコツを知ろう

— 「学習と職業」「学習と成果」の関係の理解 —

講師 株式会社新日本コンサルタント代表取締役社長 市森 友明 氏

### 1.はじめに

皆さん、おはようございます。新日本コンサルタントの社長とご紹介がりましたが、今日は富山経済同友会の会員として参りました。

私は 46 歳で、皆さんは高校 1 年生ですから、私はちょうど皆さんのお父さんの年代くらいでしょうか。多分、この中には 46 歳のお父さんを持つ方が何人かいると思います。ですから、お父さんから話を聞くような感じだと思います。それでも、今は平均寿命が 80 歳を超えて 85 歳前後なので、私はまだ人生の半分を少し過ぎたところで、皆さんと同じようにまだまだ勉強中の身です。校長先生や教頭先生のような人生経験はまだありません。ですから、皆さんの前で偉そうなことを言うつもりはありませんし、言えません。ただ、私が高校生のときを振り返ってみて、当時こういうことが分かっていたら、もう少し違う人生があったのではないかと思うことを、二つばかりお話ししたいと思います。タイトルにあるように、一つ目は、今、学んでいることと職業がどう関連してくるのかということ。二つ目は、やはり成果が出ないといけないので、学習していく上で成果はどのように出てくるのかということです。

先ほど、校長先生と教頭先生からお話を



聞きました。魚津高校は本当に素晴らしい、伝統のある高校です。そこに入学された皆さんは、本当に素晴らしい環境で学んでいると思います。特に今日の進路探訪は、土曜日に半日かけて進路のことを考える機会です。私の話が 1 時間くらいあって、その後は各教室で、小さいグループに分かれて各企業の方のお話を直接聞きます。非常に素晴らしい取り組みをされていると思います。私もいろいろな高校でお話をさせていただく機会がありますが、ここまで本格的に実施されている高校は魚津高校だけではないかと、非常に感心しています。事前に担当の先生から『進路探訪』という本も送っていただき、隅々まで全て目を通しました。これを将来につなげていくということ

を考えると、皆さんは非常に大きなチャンス、機会に恵まれていると思います。最初の 1 時間は私の話で、聞きにくいところもあるかもしれませんが、一生懸命話しますので、よろしくお願いします。

素晴らしいことに、魚津高校には「明るい協力、撓まぬ勉強」という校訓があります。「明るい協力」というのは意味が分かりますが、「撓まぬ勉強」というのは難しい日本語で、先ほど校長先生にも確認しました。「撓まぬ勉強」というのは良い言葉ですが、「撓む」という日本語はあまり聞きません。「撓む」とはどういう意味か分かりますか。真っすぐのものが、ぎゅっと曲がることを「撓む」といいます。例えば、魚を釣ったときに、釣り竿の先端がぎゅっと撓みますよね。「撓まぬ」というのは、「撓む」の否定語です。つまり、「撓まぬ勉強」とは、真っすぐ勉強していこうということです。そういうことが校訓にあるので、魚津高校に入ったら撓まぬ勉強をしていくのだということ、まずはしっかり肝に銘じていただきたいと思います。

魚津高校の素晴らしさは、もう一つあります。私が今ここに立っているのは、いろいろな経済界の方々に教を乞うことができたからです。私は経済同友会というところで活動していますが、特に御年 78 歳で、魚津高校の卒業生である中尾哲雄さんには、いろいろな教を受けました。中尾さんは現在インテックの最高顧問をしていらっしゃいます。私は富山に帰ってきた 11 年前から、中尾さんからいろいろな教を受けました。中尾さんという魚津高校の卒業生のおかげで、現在の私があると思っています。

それから、親しくお付き合いさせていた

だいているのは、宇奈月にある大高建設の大橋社長です。この方は五十数歳で、富山県の PTA 会長もされましたが、やはり魚津高校の卒業生です。魚津高校の卒業生には、他にも経済界で活躍されている有名な方で、しかも優秀な方が、本当に大勢いらっしゃいます。その伝統ある魚津高校でこのような授業をさせていただき、本当にありがたいと思っています。

今日は最初に簡単な自己紹介をして、学習と職業、学習と成果の関係について説明させていただきます。それから、やはり職業に就くということはお金を稼ぐことであるということとは否定できないので、お金の話も少しさせていただきます。そして最後に、日本の将来のためにということで、今、日本が世界の中でどういう位置付けになっているのかを簡単に紹介して、まとめたいと考えています。

### 2.人生を振り返って

まず、自己紹介です。私は 23 歳から仕事をしていますが、最初に入った建設会社では、地下鉄を造っていました。造るといっても、自分の手で造るわけではありません。工事の管理をしていました。これは気になるところだと思いますが、地下鉄の工事では、最初に直径 6m ほどのトンネルを掘ります。地下鉄は、東京や大阪に行くとき分かりますが、ビルが建っていて、橋があって、大きな道路があるところの真下にできていきます。そこを専用のトンネルマシンで掘っていきます。今日は男性も大勢いらっしゃいますが、大きなものを造るという男のロマンを非常に感じるいい仕事です。やはり男性には、ものづくりが好きな人が多いと

思います。当然、機械などを造る仕事もありますが、地下鉄を造るといっても非常に面白い仕事です。

今は新日本コンサルタントという会社にいますが、そこでは設計をしています。設計とは、図面を書くことです。橋や道路、発電所、河川の図面を書いています。造るところから設計に移って、計画する方の仕事をしています。

私の会社は、三つの会社から成り立っています。一つ目が先ほどの新日本コンサルタントという道路や橋、公園、下水道、水道など、皆さんの生活に密着したものを設計する会社です。二つ目がニックスニューエネルギーという発電事業の会社です。太陽光発電と水力発電を運営しています。三つ目がFields都市総合研究所という他の二つの会社とは全く違う飲食事業の会社です。富山県と石川県で、中華レストランと言っていますが、いわゆるラーメン屋を営んでいます。この3社で、合わせて約200名の従業員が働いています。そして、今、新日本コンサルタントは36年目を迎えています。新日本コンサルタントには、約100名の社員がいます。

私の会社は何をしているかという、具体例としては環水公園が挙げられます。皆さんは行ったことがありますか。環水公園は最近きれいになりましたが、あそこを設計したのがうちの会社です。皆さんに本当にたくさん利用していただき、大変ありがたいと思っています。とてもいい公園だと思いませんか。非常にお金が掛っています。もちろん私が払っているわけではなく、富山県がお金を掛けて造りました。やはりお金を掛けると、いいものができます。おか

げさまで、都市公園コンクールでは国土交通大臣賞も頂きました。

その他にも、いろいろな社会インフラの設計をしています。もうすぐ高岡に1万人弱が収容できる野球場ができますが、その設計も私の会社が実施したものです。男女問わず、デザインをする仕事は結構面白いものです。今日は進路を探訪する授業なので、皆さんにはこういったことにも興味を持っていただければと思っています。世の中にはいろいろなものができていますが、それらを造る仕事の前には、われわれの仕事のように考える仕事があります。絵を描く仕事です。造るものを絵に描くという、前段の仕事があるということも理解していただければ、ありがたいと思います。あと、今は水力発電事業もやっています。

自己紹介の最後に、私の46年の人生を皆さんに簡単に紹介させてもらいます。横軸が生まれてから46歳までの年齢で、縦軸が人生の満足度というグラフを作りました。この満足度がどこまで上がったらいいのかは分かりませんが、現在から振り返って相対的に考えてみます。小学生、中学生、高校生、大学生、社会人を経て、今は経済人です。小中学生のときは、何も考えずに野球ばかりして生きていました。高校は、志望校に何とか入れて、3年間、頭を丸坊主にしてひたすら高校野球をしていました。それなりに満足する高校生活だったと思っています。そして大学生も、志望校には何とか入りましたが、何となく目標を持たずに過ごしてしまったという後悔はあります。何となく流されながら、楽しい大学生活を送ってしまいました。皆さんは高校入試が終わった直後ですが、振り返ると、やはり

その時期に今日のような授業を聞いて、こういう職業に就きたいとか、こういう人間になりたいといったことを思いながら高校時代を過ごせば、もう少し違った人生もあったのではないかと思います。

就職すると、満足度が少し落ちていきます。あまり目標を持たずに高校時代と大学時代を過ごした結果、正直に言って、行きたい会社には就職できませんでした。佐藤工業という従業員5000人ほどの、富山では有名な会社に就職しましたが、世の中にはもっと大きな会社がたくさんありました。できればそういう会社に行きたかったのですが、大学時代に目標を持たずにやってきたこともあって、流されながら就職してしまいました。そして、社会人としてサラリーマンを11年間やりました。私の人生はこういう感じです。

会社に入って最初の頃は、世の中はどんどん不景気に向かっていました。会社の業績もどんどん落ち込んで、なぜこんな会社に入ったのだろう、もう少し大学のときに勉強しておけばよかったのと思うような、非常に後悔が募る毎日でした。しかし、先ほどご紹介したような地下鉄の建設工事などをしながら、その中で一生懸命頑張っていくうちに、最初は自分の仕事が全く面白くなかったのですが、面白くなってきて、この会社でよかったと満足度がどんどん上がっていったのです。

ここで皆さんに言いたいのは、昨年、講演した若林さんもおっしゃっておられますが、就きたい職業はこれだと思ったとしても、その職業に就ける人は10人に1人もいません。なりたかった職業に就けるのは、多分、100人に2~3人でしょう。世の

中はそんなに甘いものではありません。私もなりたいたと思って建設会社に入ったわけではありませんでした。ただ、与えられた境遇の中でまずは一生懸命頑張ることによって、置かれている自分の立場に満足し、自分がやっていることが好きになってきます。若林さんもおっしゃられていましたが、今、置かれている自分の立場に、自分を合わせるということです。自分の好きな職業に就くのもいいのですが、就いてしまった後は職業に自分を合わせていくということも、社会に出ると必要だと思えます。

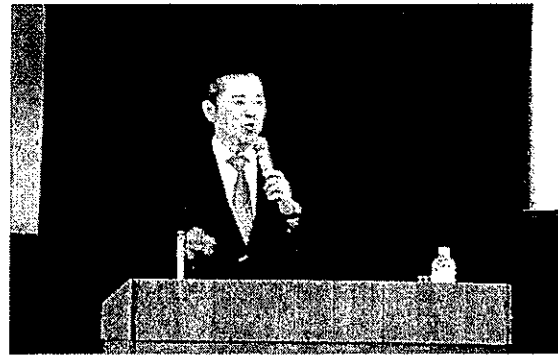
私の順調な社会人人生は、ここで一つの転機を迎えます。私の人生の大きな糧になっているのですが、佐藤工業の倒産です。従業員が5000人いた会社が倒産しました。会社更生法で今も佐藤工業は残っていますが、5000人いた人員が今では1000人と、5分の1の規模になっています。非常に不景気なときに自分が勤めている会社が潰れるという経験は、皆さんはなかなかできないと思いますが、私は経験してしまいました。

その後、富山に舞い戻ってくるわけですが、そのときは人生最悪の時期でした。自分のせいで倒産したわけではないと思っていたので、私はなんて不幸なのだろう、せっかく頑張っていたのに、世の中はなんて不条理なのだろうと思っていました。帰ってきて入った新日本コンサルタントという会社は、父がやっていた会社で、従業員は40人余りでした。同じ建設業界なので、ご多分に漏れず非常に業績が悪くて、非常に多額の借金がありました。佐藤工業が倒産したのは借金、つまり負債が多かったからですが、新日本コンサルタントは更に借金

の比率が多かったのです。このままいくと、人生で2回も倒産を経験するのではないかと思います。

それでも、いろいろな人から教えを受けて、必死で頑張りました。今は何とか売上で言うと当時の業績の4~5倍になり、おかげさまで負債はほぼ全て返済できました。社会人になった最初の頃を思い出して、非常に不遇な目に遭っても、その中で一生懸命頑張ることで次の世界が開けてくるのだという気持ちで、歯をくいしばって頑張りました。そうして今、会社は何とか良くなって、私はこうして皆さんの前で話ができる立場になりました。

自分の46年間の人生を振り返って皆さんにお伝えしたいのは、不遇になったときに、そこで諦めないということです。しっかりと頑張って、周りのせいにはせず、この状況を何とか自分自身で解決していくのだという気持ちを持って取り組んでいくことで、人生は随分と変わってきます。不遇は逆にチャンスだと思ってください。不遇が自分自身を強くします。高校時代も、間違いなく落ち込むことがたくさんあると思います。試験の成績が悪かったとか、部活動で試合に負けたとか、たくさんあると思いますが、それは次に成長するために、例えば神様がチャンスを与えてくれているのだと思ってください。ここで頑張ることによって、また一つ大きな自分になれるのだという気持ちで、皆さんには頑張っていたきたいと思います。



### 3. 学習と職業

本題に入って、学習と職業の関係について説明したいと思います。私は、学習には二つの役割があると思っています。皆さん、勉強していますよね。魚津高校の校訓は「撓まぬ勉強」ですから、勉強は大事です。理系に行くとは物理学を習いますし、数学や英語は既に皆さんが習っています。勉強が、将来、何の役に立つのかを考えてみたいと思います。

例えば物理学ですが、皆さんはもう物理学を習っていますか。文系に進む人は恐らく学ばないと思うのですが、物理学が何の役に立っているのか。物理学は、私がしているような土木の設計や建築の設計、機械の設計に必要な不可欠な学問です。物理学の基礎が分かっていると、この職業には就けないということです。

例えばこの講堂を見てください。天井が掛かっています。この天井は、大工さんや建築会社が適当に掛けたわけではありません。物理学を使って力を計算しています。まず、屋根そのものの重さを考えます。次に、雪が降ったときの雪の重さを量ります。また、地震が来ると全体が揺れますが、そういった力に耐えるためには、どういう形状で、どういう厚みの天井を造らなければ

いけないかが計算されています。それには物理学の知識が不可欠です。

次に数学です。これは文系も理系も共通の科目です。例えば企業会計の処理や決算書の作成には、数学の知識が必要です。他にも、最近は投資が流行っていますが、株を買って、リターンが幾らかという計算は数学です。また、保険商品の計算もそうです。病気になる人の確率が何割のとき、皆さんの掛け金をどれくらいにすれば、保険会社が儲かるのか。こういうことは全て数学を使って計算しています。ですから、数学の知識がないと、会計会社や投資会社、銀行、保険会社などには入れないことになります。

次に英語です。これは言わずもがなですが、海外出張が必要です。日本の企業にいても、海外出張に行くと、当然、現地では英語です。世界の約3分の1の人が英語を使っているため、当然英語は要ります。それから、海外企業との交渉や、あるいは皆さんの中から海外の会社に所属する方も出てくるかもしれません。従って、海外ビジネスで必要です。

これらをひっくるめて、実用学といえます。実際に世の中で仕事を実践する上で、最低限必要な学力や知識ということです。例えば、われわれの土木設計は物理学が基礎になっています。私はたまたまシンガポールに行きましたから、英語は多少使えますが、ずっと日本で仕事をするなら、もしかすると英語は要らないかもしれません。ただ、何らかの学問は、この実用学の基礎につながっています。もし皆さんが今の段階で、例えば最初から建築設計技術者になるのだと決めているのなら、国語や歴史

といった科目を勉強せずに、物理学ばかり勉強してもいいかもしれません。しかし、そういうわけにはいかない、二つ目の理由があります。

学習には二つの役割があります。将来、物理学を使わない職業に就くかもしれないから、物理学など勉強しなくていいのではないか。数学を使わない職業に就くかもしれないし、英語を使わない職業に就くかもしれないから、勉強しなくていいのではないか。そのように思うかもしれませんが、しかし、それは、皆さんが次の段階へ進むために必要なのです。つまり、大学や就職試験に合格するために必要になります。将来は物理学しか使わなくても、その会社に入るプロセスとして、次の段階である大学や就職試験に合格するためには、やはり英語の学力も国語の学力も必要になるということです。ですから皆さんは、今、与えられている科目の全てとは言いませんが、現実的には、やはりオールマイティに勉強しておく必要があるということになります。

それ以外にも、勉強にはいろいろな意味があると思っています。今、実用学の基礎になるということ、そして大学に進学したり就職したりするために必要だという現実的なことを言いました。他にも、夢をかなえるために勉強するとか、集中力や考える力、情報を読み取る力を身に付けるためとか、人生を自分で切り開いていくためとか、苦勞を耐えて乗り越えていくためとか、いろいろな意味があると思います。ご両親から、勉強は我慢する力を身に付けるためにやっているのだとか、勉強しないと立派な人間にならないとか、いろいろ言われるのではないのでしょうか。それは結局、ひっく

るめて、この中に包括されると思います。勉強は実用学の基礎に必要になり、そして次の段階に進むために必要になるということをよく覚えておいて、勉強していただければと思います。

今日は進路探訪なので、職業へのプロセスを少し整理してみましよう。目標は高く持っていきたいということで、例えば国家公務員になって国政に貢献したいと思うかもしれません。それから、世界の国でエネルギー取引をしたいという人もいます。日本はエネルギー輸入国ですから、自分が世界に出て行って、さまざまな国のエネルギーの権益を買ってこようと思うかもしれません。あるいは、私の仕事のような社会インフラの建設に携わる仕事をしたいと思うかもしれません。このときのプロセスを少し整理していきます。

国家公務員になるには、やはり国立大学が一番近道です。当然、私立大学に行っても国家公務員になれますが、ほとんどの人が国立大学の出身です。また、国立大学にも学部がいろいろあって、法学部に行けば財務省に、経済学部に行けば経済産業省に、工学部に行けば国土交通省に、農学部に行けば農林水産省に入ります。こういうプロセスで多くの人が国家公務員になっています。当然、県庁や市役所という選択肢もあります。

世界中の国でエネルギー取引をしたいと思ったら、どういう職業に就くのか。それは、大学から総合商社に行くのが一番早いです。商社に就職すると、世界中を飛び回って、石炭や石油、ウラン、天然ガスなどのエネルギーを日本に持ってくる仕事ができます。商社へ行く人の大体は、経済学部

を出ます。経済学部を出て、目標は少し高くなるのですが、例えば三菱商事や丸紅といった会社に入って、世界で活躍するわけです。こういうところに入社して世界と取引しようと思うと、やはり英語ができなければなりません。

社会インフラの建設に携わりたいときは、大学から総合建設会社へ進み、われわれのようなコンサルタントに入るわけですが、この場合は工学部を出ます。工学部でエンジニアリングを勉強して、例えば鹿島建設や大林組に入って、いろいろな建設に携わる仕事をするわけです。こういうプロセスを、皆さんに高校生のときから全てイメージしてもらいたいとは思いますが、先ほど言ったように、私はこういったイメージを全く持たずに高校時代と大学時代を過ごしました。もし私がこういうイメージを多少なりとも持っていたら、もう少し違った人生があったのではないかと、皆さんにお話ししました。

先ほど、学習には二つの意味があると言いましたが、私は決して勉強ができないと駄目だとは思いません。しかし、よく学習した人とまあまあ普通に学習した人が、それぞれ職業選択のときにどうなっていくのかというと、やはりよく学習したの方が、実際に仕事に就くときに多くの職業を選択する権利があると思います。これは相対的な位置関係であり、普通に勉強した人も、間違いなく職業には就けます。ただ、よく勉強して幅を広めておいた方が、実際に職業を選択するときに選べる会社の数が多くなると思っています。従って、今は何になりたいというイメージが湧かなくても、勉強することで、将来の職業選択のときに少

し幅が広がるのだと思ってください。しないよりも、しておいた方がいいのです。勉強しなくても全く問題ありませんが、した方が、もしかするとチャンスが広まるかもしれないと思っていただければ結構です。

今日は将来をイメージしてもらいたいということで、各会社の方が来られているわけですが、高校生のときに職業をイメージするのは、なかなか難しいと思います。だからこそ、将来のイメージができないからこそ、まずは黙って学習しましょう。そうすることによって、学習する中で将来のイメージができて、来るべき選択に備えることができると思っています。

当然ながら、将来をイメージできれば一番いいのですが、正直なところ、私は高校時代と大学時代に自分の将来をイメージできませんでした。高校時代は野球ばかりやっていたし、大学時代は楽しいからお酒を飲んで遊んでばかりいたので、なかなかイメージできませんでした。就職のときに慌ててぱっと会社に入ってこうなったので、イメージできた方がいいのですが、それはなかなか難しいと思います。

ここでの話をまとめると、学習と職業の関係を意識しましょうということです。学習は、将来使う実用学の基礎にまず必要で、それから、次の段階へ進むために必要です。皆さんには、この二つの意味を高校1年生のときに理解して、勉強に励んでいただければと思っています。

#### 4. 学習と成果

次に、学習と成果の関係について話したいと思います。仕事にも学習にも、やはり努力は必要になります。勉強しようと思

たら、やはり努力が必要です。しかし、努力はつらいものです。それは高校生も社会人も同じです。それでも努力しないと、なかなかうまくいきません。皆さんは、今、勉強はつらいと思っても努力はしていると思いますが、ここにいる先生方も含めて、実は社会人になると、もっと努力しなければいけません。高校生のときは勉強だけをしていればいいので、まだ楽なのです。社会に出ると、勉強しなければいけないし、人付き合いもしなければいけないし、交渉や営業などもしなければいけないし、いろいろなことをやらされます。実は、社会に出てからの方が、たくさんの努力をしなければならぬのです。とにかく目の前のことを努力してやるということが、人生ずっと、死ぬまで続くわけです。しかし、努力は大変だし、努力しても成果が出ないと思っている方は多いと思います。高校時代でも、やはり自分には才能がないとか、努力しても学習成果が上がらなくて、私は駄目なのだと思うときがあるかもしれません。

私がいつも考えているのは、努力と成長度の関係です。ここで、成長度と努力した時間の関係について、皆さんに質問したいと思います。1番は、努力した時間に比例して成長していく。2番は、努力すると最初の方は急激に成長して、後で緩やかに成長する。3番は、最初は成長しないが、途中から急激に成長していく。皆さんは何番だと思いますか。さすが魚津高校、皆さん正解です。そうではない方もいますが、人間の脳では、ある程度反復していくと、途中から急に理解の構造が出てきます。これが人間の脳の構造です。具体的に表すと、成長度と努力した時間の関係は、3番です。

皆さんは勉強するとき、多分こういう感じで理解していくことになると思います。これは勉強だけではなく、スポーツや趣味でも同じです。やりはじめたばかりの頃は、すぐに少しだけうまくなるのです。最初に、ぱっと分かるのです。しかし、しばらくすると、その理解度が停滞してしまうのです。ずっとやっても、しばらく分からない時期が来ます。この間を過ぎると、突然そこから急に成長しだして、最後は成熟します。私は、これを「成長の壁」と言っています。

意外にも、この停滞する部分で諦める人が非常に多いのです。学習においては、特に多いと思います。物事は何でもそうですが、ここの時期は精神的にも大変です。努力していても、毎日勉強しているけれども、分からない。しかしその先に、突然、脳の構造がそれを理解するときが来るのです。ここまでいくと、非常に楽しくなります。私も数学など、勉強はそれほど好きな方ではありませんが、分からないと思っていても、問題集を解いていくうちに、何日かすると、「なるほど、こういうことか。なぜこんなことが分からなかったのだろう」と感じる時期が必ず来ます。ここで急速に理解していくと、非常に楽しくなってきます。学習と成果の関係はこういう関係なので、勉強も大変なときこそ諦めないで、とにかく勉強していれば、いつか分かる時期が来ると信じて学習していただきたいと思います。これは私の経験談です。全部が全部成功しているわけではないのですが、私は特に高校生のとき、こういうことを考えながら勉強していました。

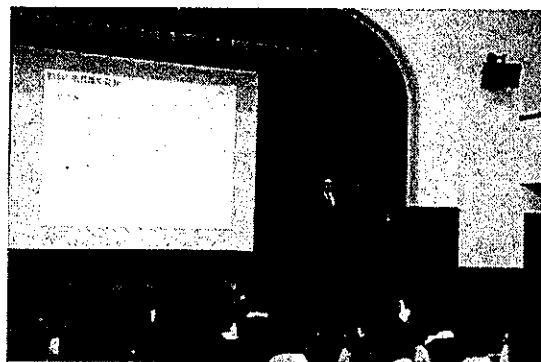
CMにも出ている松岡修造さんというテ

ニスプレーヤーも、「100回叩けば突破できる壁があっても、99回で諦めてしまう人がいる。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう」と言っています。「成長の壁」が、ちょうど100回目にあるのです。99回目まではほとんど成長しないので、壁は破れません。しかし、100回目で壁は破れます。99回までしか我慢できないか、100回叩けるまで何とか我慢したか。99回の人と100回の人で、大きな差ができてしまうのです。これを、われわれはブレイクスルーと言っています。「成長の壁」の前後での努力差は小さいけれども、成長度は大きく異なります。従って、皆さんもスポーツや勉強でブレイクスルーを迎えるべく、何とか頑張ってください。こういう構造になっているのだということを理解しながら、勉強やスポーツに励んでいただきたいと思います。

このようなことが分かっていると、成長している実感がなくても、努力する動機ができます。今は成長していなくても、しばらくするとブレイクスルーが来るはずだと信じて、地道に努力し続けるということです。スポーツも一緒です。私は野球をやっていましたが、下手ながらも、最後まで自分なりに努力しました。最後は何とかレギュラーで出させてもらいましたが、やはり最初は本当に下手でした。2年生の後半あたりまでは万年補欠のような感じでしたが、ようやく最後の方で、少しだけ球を取れるように、投げられるように、打てるようになりました。2年間我慢して、補欠でも腐らずに野球を続けて、ブレイクスルーを迎えられてよかったと思っています。スポーツでも何でも同じなので、皆さんにはこの

ことを覚えておいていただきたいと思います。

まとめると、学習と成果の関係を意識しましょうということです。努力した時間と成果は絶対に比例しません。ブレイクスルーは突然やってきます。頭のブレイクスルーや体のブレイクスルーが来るまで、諦めずに何とか頑張ってくださいと考えています。



#### 5.職業とお金

今日は進路の話ですから、ここからは少し現実的に、職業とお金について話したいと思います。仕事に就いたらどれくらいお金を稼げるのか、やはり若干興味があると思います。お金を稼げなければ、物も買えないし、食べていけませんから、お金は大事です。私は、やはり高校生のときからお金のことも意識した方がいいと思っています。私は高校生のときにはお金のことを全く考えていませんでしたが、もっとお金を稼ぐことを意識していれば、もう少し違った人生ではなかったかと思っています。

各職業に就いたときに稼げる額は、平成23年度の国税庁の調査によると、平均で409万円です。これは働いている人全員の平均なので、その中では非常に差があります。日産のカルロス・ゴーン社長のよう

10億円ももらっている人もいれば、アルバイトで働いていて100万円ももらっていない人もいます。その平均が409万円です。400万円あれば、月30万円くらい使えるわけですから、生活は十分にできると思います。この中にはパートタイマーも含まれているので、それを除いて正社員だけで平均を出すと、確か460万円くらいだったと思います。正規雇用の社員の平均は460万円です。

次に、年収を職業別に見てみましょう。409万円と460万円という平均を覚えておいてください。年収ラポの平成25年度のデータによれば、職業別に見たときの1位は弁護士です。平均の3倍に近い、1180万円もらえます。2位はパイロットで、1160万円です。空を飛んで1200万円もらえたら、かっこいいですね。3位は大学教授の1000万円、4位は医者で1070万円です。言いにくいのですが、あくまでデータからすると、公立高等学校の教員は776万円です。先生方も結構いい生活をされています。高校の先生の給料は決して安くありません。大変な仕事ですし、大学を出て、教員試験という非常に狭き門をかいくぐって先生になっているわけですから、学校の先生もそれなりの給料をもらっています。

皆さんには、こういうことを意識していただきたいです。やはり頑張っている職業に就けば、高い給料をもらえます。お金に興味はない、人生はお金ではない、楽しければいいのだと思うかもしれませんが、例えば年収が200万円と1200万円では、6倍違うわけです。6倍違うと買えるものが変わってきます。年収200万円だったなら軽自動車かもしれませんが、1200万円



だったらベンツになるかもしれません。やはりお金はそういうものです。200万円だったらアパート住まいかもしれませんが、1200万円だったらちょっとした豪邸に住めるかもしれません。そういう生活の豊かさとお金は、ある程度は直結しています。先ほど、先生の年収にも言及しましたが、やはり先生も高校の先生になるために勉強して、努力したのです。そうして先生という職業に就けたご褒美として、それなりの報酬があるということです。勉強した先にはこういった成果も待っているということを、やはり高校のときから少しは意識してほしいと思います。

それでは、会社別に見てみましょう。例えば三菱商事はすごいです。世界でエネルギー取引をしていますから、平均年収が1400万円です。先ほど1位だった弁護士を超える給料をもらっています。伊藤忠商事もそれくらいです。電通に行っても1100万円もらえます。やはりこういう立派な企業に行けば、それなりに給料は高くなります。東京や海外に出て行って仕事をすると、給料は高いです。

国家公務員や、先生のような地方公務員になってもいいと思います。公務員の平均年収は650万円で、県によっては670万円です。これは総務省や人事院のデータで、私が勝手に作っているわけではありませんので、先生方はご了承ください(笑)。非常にいい給料をもらっています。

お金が汚いものだとあまり思わずに、こういったことも少しだけ意識しましょう。お金はやはり大事です。中国には、「衣食足りて礼節を知る」ということわざがあります。これは短縮形のことわざで、着る物と

食事がしっかりしてこそ、礼儀や物事の分別を知るという意味です。人間というのは、やはり最低限のお金がないと、どうしても悪くなってしまいます。世の中でいろいろと不幸な目に遭っている人、例えば殺されたり、盗まれたり、あるいは殺したり、盗んだり、詐欺を働くような人々は、大抵はお金の問題が関係しています。そういうことも高校1年生くらいになると少し意識して、礼節を知るという意味でも、やはりお金は必要なのだということを理解していただきたいと思います。そのために職業にきちんと就いて、安定的な給料を得なければならぬのだと理解してください。

#### 6.世界から見た日本の現状

皆さんは日本の将来を背負っていきます。これからどんどん勉強して、会社に入って、がんがんで、日本の将来を背負っていくわけです。では、日本の現状はどうなっているのか。1985年から2008年までのGDP(国内総生産)、つまり国内でどれだけの富を生み出したかというデータを見ると、日本は500兆円で、1995年から伸びていません。これについては、日本は成熟国家だから、高齢化社会だから伸びていないのだと言う方々がたくさんいます。そう考えると、アメリカやヨーロッパなども成熟国家だから、そういった先進国はみんな伸びていないと思うかもしれませんが、しかし、実はヨーロッパやアメリカは、1995年以降もどんどん経済成長しています。それから中国も非常に成長しており、人口が違えば、日本は既に抜かれてしまいました。従って、実は成長していないのは日本だけです。これはわれわれの世代に責任がある

のかもしれませんが、もっと上の60~70歳の人々に責任があるのかもしれませんが、だからこそ、安倍総理大臣は今、日本の再成長戦略をうたっているわけです。

今日は、私は経済同友会の代表で来ます。経済同友会とは、経済を研究する団体です。当然のことながら、お金を国内と国外でしっかり回していこうということを考える団体です。このお金の力関係というのは、非常に大事です。最近、日本はTPPなどの貿易の問題や、尖閣諸島や竹島といった領土問題で、諸外国から責められています。日本は責められてばかりで、防戦一方になっています。そのような状況と国がお金を稼ぐ力は、無関係ではありません。世界のGDPのシェアを見ると、例えば1995年は、世界のお金を稼ぐ力の18%を日本が占めていました。しかし、5年前の2008年にはたったの8%になり、今は多分、4~5%になってしまっています。これだけお金を稼ぐ力が弱くなると、やはり外交関係で弱くなるのです。戦争での勝ち負けではなく、今の世の中は経済戦争ですから、やはりしっかりとお金を稼ぐ力を身に付ける必要があります。

日本のお金を稼ぐ力というのは、われわれ一人一人の力なのです。私たち一人一人がしっかりと働いて、どれだけ生産性を上げて、どれだけ給料を高め、それをどれだけどんどん世の中に使っていくか、経済活動をしていくかということが、GDPに反映されるのです。従って、皆さんには、職業に就いて将来の日本をしっかりと背負っていくという役割があるということを、ぜひ覚えておいてください。

#### 7.まとめ

まとめに入りたいと思います。学習の意味を話しましたが、やはり一番言いたいの、よく学習した場合と普通に学習した場合を比べると、やはりよく学習した方が、将来の職業選択の権利があるのが現実だということです。将来の職業選択の権利があるというのは、もしかしたら自分のなりた職業に就けるかもしれないし、先ほど言うように、パイロットになっていい給料をもらえるかもしれないということです。高校の先生や医者にだってなれるかもしれません。そうでなくても、地元の安定したい会社に入れるかもしれません。今日、皆さんがこの後に話を聞く会社の方々は、いい会社の人ばかりです。そういう会社に入れるかもしれません。つまり、多くの職業の選択できる権利があるということです。高校で将来をイメージするのは難しいですが、イメージできないからこそ、学習してください。そうすると、将来がイメージできるかもしれません。実用学の基礎に必要であり、次の段階に進むために必要だというのが、学習と職業の関係だと理解してください。

次に言いたいのは、学習と成果の関係を理解してほしいということです。ブレイクスルーは突然やって来ます。松岡修造さんが言うように、99回叩いても破れないけれども、100回目で破れる壁があります。99回で諦めると、全て無駄になってしまいます。もしかすると、私たちはみんな、99回で諦めているかもしれません。そうならないように、ぜひ頑張ってくださいということです。

最後に、人にはそれぞれ違いがあります。

性格も違いますし、やはり得手・不得手があります。私は野球がとても下手でしたが、うまい人は最初からとても上手でした。能力には差があって、得手・不得手があります。しかし、大事なことは、生まれ持った性格や不得手なことを、どこまで努力して自分の能力の中で生かし切れるかということだと思っています。私がイチロー選手になろうと思っても、絶対に無理です。私が小さいときからイチローと同じように野球をしていたとしても、もともとそういうDNAをもらっていないのでイチローのような運動神経がありませんから。しかし、下手でも自分の運動神経の中でどこまでうまくなれるかということが、人生の中では大事だと思います。

魚津高校の校訓のとおり、ブレイクスルーを信じて「撓まぬ勉強」をして、自分の能力の限界までとは言いませんが、できるだけ生まれ持った自分の特徴を生かし切りましょう。それが勉強だと、私は思っています。

言い古された言葉ですが、ロシアの小説家であるトルストイの言葉を、皆さんに贈ります。「努力は幸福を手に入れる手段ではない、努力そのものが幸福を与えてくれる」、私はこの言葉がとても好きです。努力するから幸福になるのではなく、努力そのものが幸福を与えてくれるということです。有名な小説家であるトルストイが言ったこの言葉は、いろいろな人が使います。さまざまな言葉がある中で、私はこの言葉がやはり一番好きです。不遇なときも、苦しいときも、努力をしているから幸福が手に入るとは考えずに、努力している自分がすてきなのだと考える。勉強が分からなくても、

商売がしんどくても、何か不遇な目に遭っても、努力しているからいいのだ、そうやって自分は生きているのだと思って、自分のできる範囲で努力していくことが大事だと思います。

1時間ほど好き勝手に話しましたが、魚津高校は、本当に素晴らしい伝統に育まれた高校だと思います。そこに入学した皆さんは、これからまだ2年数か月間、この学校で学ぶわけです。われわれの向こう2年間と違って、皆さん高校生2年間には、頑張りようによっては無限の可能性があると、私は思います。私はもう46歳ですから、どれだけ頑張っても、あと2年で大きく変わるわけはありません。しかし皆さんは、この2年間の頑張り、心の持ちよう、人生が変わります。素晴らしい高校の、校長先生と教頭先生をはじめとする素晴らしい先生方に恵まれている環境でぜひともしっかりと充実した高校生活を送っていただき、また、今日を通じて将来の職業や進路に対するイメージを固めていっていただければ、大変ありがたいと思います。

雑駁な話でしたが、皆さまのますますのご活躍を心より祈念して、私の話に代させていただきます（拍手）。

